

2023 年 12 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 38

Maxillofacial Prosthetics

発行人 松山美和

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第 41 回総会・学術大会は日本顎顔面インプラント学会と共催 会期は 11 月 29 日～ 12 月 1 日



大会長 古賀 千尋 先生

(福岡歯科大学歯学部 口腔医療センター教授)

会 期：2024 年 11 月 29 日(金)～ 12 月 1 日(日)

会 場：福岡国際会議場

(福岡県福岡市博多区石城町 2-1)

この度、一般社団法人日本顎顔面補綴学会第 41 回総会・学術大会開催につきまして、福岡歯科大学口腔医療センター並びに福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野にて担当させていただきましたこととなりました。主幹の拝命を賜り、副大会長である都築尊有床義歯学分野教授ともども大変光栄に感じております。

今回は例年とは異なり、日本顎顔面インプラント学会の第 28 回総会・学術大会との共催となりました。第 28 回の大会長を務める福岡歯科大学咬合修復学講座インプラント学分野の城戸寛史教

授をはじめ、各教室の先生方と一丸となって鋭意準備を進めております。

本学会は広範囲顎骨支持型補綴装置に関して日本顎顔面インプラント学会と共同研究を行っており、その内容についてはシンポジウムや教育研修会においても度々取り上げられている話題であることは、皆様周知のことと存じます。そうした背景から、本学会の松山美和理事長は、「日本顎顔面インプラント学会となんとか共催できないものだろうか」という意向をかねてから抱いておられました。そんな中、日本顎顔面インプラント学会と本学会の主幹校がどちらも福岡歯科大学という千載一遇の機会が訪れ、また両学会において重鎮として知られる瀬戸皖一先生が橋渡し役として御尽力されたことも相まって、嶋田淳日本顎顔面インプラント学会理事長の快諾を得るに至り、この度の共催が実現することとなりました。

そのため、開催日程につきましては両学会で整合させることとなり、例年の総会・学術大会であれば 6 月開催と致しますところを、11 月 29 日(金)～ 12 月 1 日(日)とさせていただきます。11 月 29 日(金)に委員会・理事会、11 月 30 日(土)、12 月 1 日(日)両日に総会・学術大会を開催させていただく予定となっております。例年参加をいただいております先生方におか

れましては大変ご不便をお掛けすることとなりますが、万障お繰り合わせの上、御参加をお願い致します。

現在日本顎顔面インプラント学会の先生方とプログラム作成に取り組んでおります。共催ならではのプログラムに仕上がるよう努めて参りますので、どうぞご期待下さい。

福岡は美食が豊富なことで知られる街です。会期となる初冬の季節であれば、もつ鍋、水炊き、胡麻サバ、ふぐなどが旬のものとしてお楽しみいただけるでしょう。学会で知的好奇心を探求した後は、美食で癒されながら、博多・福岡の夜を満喫されてはいかがでしょうか。学会開催に向けて、

教室員一同、先生方にご満足いただけるよう誠心努力して参ります。先生方の多数の御参加をお待ちしております。



福岡国際会議場

新規企画 特別名誉会員・名誉会員に聞く①（田中貴信先生）

学会のニュースレターの体裁や記事内容も、ややマンネリ化がしてきたようにと、広報委員会も自覚をし、委員会で検討した結果、本号から新たな連載を行うこととなりました。

我々の学会は1976年の日本顎顔面補綴研究会を原点とし、1984年から現在の日本顎顔面補綴学会となりました。近年、本学会の礎を築いてくださった諸先生方に、学術大会でお目にかかる機会も少なくなてまいりました。そこで、広報委員会では特別名誉会員、名誉会員の先生方からのお声を頂戴したく、本企画を計画致しました。

初回は、第1回日本顎顔面補綴研究会定例会の世話人をはじめ、研究会時代の世話人を10回、学会移行後の大会長を2回お勤めになられた、第4代本学会理事長の田中貴信先生から、ご寄稿を頂きました。ご協力を賜りましたこと紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

（広報委員会委員長 中島純子）

学会でのエピソード・印象に残っていること 田中貴信先生（愛知学院大学名誉教授）

もう昔の事ゆえ、間もなく満80歳を迎える老体には、細かい事柄は思い起こせないが、まず頭に浮かぶのは、以下の事柄である。

- ・1976年の顎顔面補綴研究会、学会発足当初から、その研究会誌、学会誌の発行担当に名乗り出て、表紙のデザイン、編集作業などの全てを一人で行って来たが、それらの発行費用は、会本部には鏝一文も求めることなく、自身で関連業者から掻き集めた賛助金で賄ってきた。
- ・50年後も忘れられない症例
勿論、これらは当時の学術大会、学会誌に発表をしてきたが、その後患者自身、ご両親、担当

外科医から経過を耳にした瞬間、いずれも我が身の両眼から涙が溢れたことは、今でも忘れられない。

- 1) 仙台からお茶の水に通院して来た、腫瘍摘出による顔面半側欠損患者へのエピテーゼ製作。装着1か月後、娘さんの結婚式に間に合ったと、喜びの連絡。
- 2) 広島から来院の先天性耳介欠損の子供にエピテーゼの装着。その後、治療後は級友と同じように短髪にすることができて、皆で一緒に過ごせる様になったと、母親から連絡。
- 3) 顔面から口唇部迄の血管腫が進行し、担当外科医から出血の危険があるため、義歯の使用を禁じられたと、泣きながら来

院した女性患者に、患部に圧力が掛からない様な可動性義歯を装着。その後腫瘍が悪性化して死亡するまで、40年間その義歯を使用していたことを、担当医から報告。

自分自身も、米国でこの分野に足を踏み入れた

当初は、単なる興味本位の気分であったことは認めるが、その後、臨床経験を重ねるうちに、この分野の仕事は、売名、出世、IFのためではなく、極めて悲惨な状態にある患者を助けることであると、痛烈に自覚させられた。「ヒポクラテスの誓い」以来、医療とは本来全てそうあるべきものであろうが、現実はなかなか…。

第40回総会・学術大会報告

2023年6月2日（金）、3日（土）、愛知学院大学楠元キャンパス110周年記念講堂において、武部純大会長（愛知学院大学）のもと、第40回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会が開催された。

大会初日には基調講演、特別講演、一般口演7演題およびポスター発表13演題の発表があった。2日目には第27回教育研修会、一般口演11演題の発表があった。さらに大会終了後には、第1回ハンズオンセミナーが開催された。ポストコロナとなった本大会は3年ぶりの完全対面形式での現地開催であり、多くの先生方が参加されていた。

（広報委員 勅使河原大輔）

特別講演



頭頸部がん治療の最前線

花井信広 先生

愛知県がんセンター

頭頸部外科

光免疫療法（PIT）はモノクローナル抗体に光感受性物質を付与した薬剤の静脈注射、特定波長のレーザー光照射による腫瘍特異的な光化学反応を利用したがん治療法である。

本特別講演では、2021年より切除不能な局所進行または局所再発の頭頸部癌に対して治療選択肢の一つとして行われているPIT技術を用いた頭頸部アルミノックス治療の実際や今後の展望についてご講演頂いた。頭頸部アルミノックス治療はPIT治療として市販後2年経過しているものの、実情として臨床試験データは限られており、治療を行った症例からの学びが重要であると述べられていた。適応となる患者像や治療意義、留意点などをまとめることでPIT治療の適正使用に向けた取り組みを行っているとのことであった。

（広報委員 勅使河原大輔）

第1回ハンズオンセミナー 「PAP治療ワークショップ」に参加して

今までのPAP治療は「そんなに発音が改善した気がしないけど…患者さんは納得してるし、まあよいか。」そんな釈然としない気持ちを抱きながら日々臨床を行っておりました。そのため、本会でPAPに関してのハンズオンセミナーがあると聞いたとき、「参加しないわけにはいかない！」と思い応募をしました。

当日のセミナーは2～3人一組のグループに歯科医師・言語聴覚士のチューターがつくという手厚い実習環境でした。まず事前に製作したマウスピースに障害子を設置し、口腔期障害の疑似体験を行いました。この体験で舌が口蓋に接触しないだけで、これだけ「しゃべりにくいかつ、嚥下しにくくなるのか」といった舌運動障害患者の辛さを実感できました。その次にティッシュコンディショナーで口蓋形態を付与した装置を装着し、構音機能、嚥下機能の改善を実際に体験します。実際に自らが体験することで、PAPの効果や装着感など様々に感じることができました。また実習中には様々な先生方とティッシュコンディ

ショナーの種類や練和の程度などのマニアックな話もでき、グループの先生方とは名刺交換を行い、交流も深められました。

今回の実習を通じて、今までの釈然としない気持ちはなくなり、今後は胸を張って PAP を患者さんに提供できると感じました。この場を借りてではございますが、本ハンスオンセミナーを開催するにあたり、ご尽力いただいた関係各位の先生

方に深く感謝を申し上げます。

(東京歯科大学 中澤和真)



学会員の活動紹介

本編では、学会員の先生の顎顔面補綴に関する他学会を含めた受賞のご紹介、会員の先生方の施設ご紹介を行います。今回は、受賞ご紹介として、日本補綴歯科学会の症例報告コンペティションで優秀賞を受賞された、東京医科歯科大学の服部麻里子先生の受賞をお知らせ致します。

また、会員の先生の施設のご紹介は、北から順番に学会認定医、認定士が在籍している施設の先生方にご依頼を申し上げる予定です。どうぞ、お声がかかりました際は、ご協力下さいますよう、お願い申し上げます。初回は、北海道医療大学の會田英紀先生にご協力を賜りました。(広報委員 中島純子)

第 132 回日本補綴歯科学会 症例報告コンペティション優秀賞 (東京医科歯科大学 服部麻里子先生 山谷 雄一先生)

2023 年 5 月 21 日、第 132 回日本補綴歯科学会学術大会にて、「Focus On 補綴歯科コラボレーション！」と題する、歯科医師と歯科技工士のペアによる症例報告コンペティションが日本歯科技工学会の共催により行われました。本学会会員である東京医科歯科大学の歯科医師、服部麻里子先生と歯科技工士、山谷雄一先生のペアによる『上顎顎義歯作製にデジタル技術を応用する際の、各ステップでの工夫について』が投票の結果、優秀賞に選ばれました。お 2 人は日頃のコラボレーションの経験から、デジタル技術を応用した上顎欠損 2 症例における顎義歯製作について、実際の技工ステップの工夫を交えて紹介されました。1 例目は無歯顎で正中を超える大きな上顎欠損の患者さんに製作したレジン床上顎顎義歯、2 例目は有歯顎の上顎欠損の患者さんに製作

したコバルトクロム床上顎顎義歯について発表され、いずれも、よく調整された旧義歯をスキャンしたデータと口腔内のデジタル印象データの両方を用いた方法により、少ない治療回数で旧義歯栓塞部の形態を再現し、顎義歯の装着に至りました。技工操作についてチョコエッグ法やデジタルオルタードキャスト法など耳に残りやすい新たな用語を用いたり、アウトカムについて患者さんのインタビュー動画を交えてわかりやすく示し、顎顔面補綴に携わらない人にとっても興味を引く発表でした。



服部先生、山谷先生

会員の施設紹介 北海道医療大学

本学には、当別キャンパスに歯科クリニック、あいの里キャンパスに大学病院ならびに在宅歯科診療所の3つの医療施設があります。現在、日本顎顔面補綴学会認定医は2名在籍しておりますが年間症例数が少ないため、いずれの施設においても顎顔面補綴を専門とする診療科を標榜していません。そのため院内もしくは院外から顎顔面補綴治療が必要な患者をご紹介いただいた際には、歯科クリニックあるいは大学病院において、主に有床義歯治療を専門としている歯科医師が随時対応しています。

学会活動としては、平井敏博大会長のもとで1992年の第9回総会・学術大会を開催させていただきました。研究面では、これまで顎顔面補綴

治療の症例報告や咀嚼機能評価について学会誌「顎顔面補綴」の誌上ならびに学術大会等で発表を行ってきました。また、近年では顎顔面インプラントの生存率向上を目指して、ラット顎顔面インプラントモデルを用いた基礎研究にも取り組んでいます。

(北海道医療大学高齢者・有病者歯科学分野 會田英紀)



(上：本学歯科クリニック，下：本学大学病院)

AAMP (American Academy of Maxillofacial Prosthetics) と戦略的な提携に対する合意文書に調印をしました。

2023年10月21日～24日に米国 San Diego にて第70回アメリカ顎顔面補綴学会が開催されました。今回の大会では、本学会と AAMP との戦略的な提携に対する合意文書の調印が尾澤副理事長と AAMP の President の Hofstede 先生との間で行われました。今後、JAMP と AAMP は HP、SNS 等を通じて学術大会の開催情報を共有すること、そしてお互いの学術大会に会員価格で参加できることとなりました。

(広報委員 吉岡 文)

学術大会初日には、ポスター発表が行われ、日本からは10演題の発表がありました。AAMP 会員を対象とした Poster Competition において、東京医科歯科大学の Islam E. Ali 先生が Research 部門で、2nd prize を受賞しました。また、2日目以降の講演では、デジタル技術を導入した顎顔面

補綴の講演やワークショップなども行われました。

学術大会全体では海外からの参加も含め271名の参加があり、盛会となりました。学術大会の詳細につきましては、AAMP の Facebook などでも確認できます。次回の大会は2024年11月、米国のフロリダ州 Naples で行われる予定です。

(広報委員 吉岡 文)



関連学会のご案内

●第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

会 期：2024年1月25日（木）・26日（金）

大会長：上田 倫弘（北海道がんセンター 口腔腫瘍外科 医長）

会 場：北海道立道民活動センター かでる2.7

問合せ：株式会社コンベンションリンクージ 北海道本部

T E L：011-272-2151



●第47回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会

会 期：2024年2月9日（金）・10日（土）

会 長：井 上 誠（新潟大学 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授）

会 場：リ्यूとびあ 新潟市民芸術文化会館

問合せ：株式会社シンセンメディカルコミュニケーションズ内

T E L：025-278-7232



●第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会

会 期：2024年5月30日（木）・31日（金）

会 長：奥本 隆行（藤田医科大学形成外科 教授）

会 場：名古屋コンベンションホール

問合せ：有限会社トータルマップ



●第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会

会 期：2024年6月1日（土）・2日（日）

会 長：虫明千恵子（東京都立北療育医療センター訓練科）

会 場：帝京平成大学 池袋キャンパス



●第3回頭頸部がんサポート研究会

会 期：2024年1月27日（土）14:00～17:00

会 長：田 中 圭（NHO 長崎医療センター 医療相談支援センター）

会 場：JR 博多シティ 9階会議室（ハイブリッド）開催



コンテンツ

新連載企画「会員施設紹介」，「特別名誉会員・名誉会員に聞く」がスタートしました。初回は田中貴信先生に寄稿を賜りました。ぜひ，ご一読下さい。

第41回総会・学術大会のご案内…………… 1

特別名誉会員・名誉会員に聞く①…………… 2

第40回総会・学術大会報告…………… 3

学会員の活動紹介

日本歯科補綴学会受賞報告…………… 4

会員施設紹介（北海道医療大学）…………… 5

AAMP との連携締結の報告…………… 5

関連学会のご案内…………… 6

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会

委員長 中島純子

委 員 猪原 健，大木明子，関谷秀樹，

勅使河原大輔，宮本哲郎，吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp